スタートを前に　　２０１３・９・１４　森塚良郎

あっという間の２年半だった。
日本縦断のコースは一瞬で繋がった。北海道の区間、青函・関門・桜島など船を利用する区間は後で決めた。九州の福岡南部から熊本の区間や広島など歴史の道調査報告書にない区間もあった。その気になれば、何とか繋がるものである。
真夏のクーラーをつけない部屋で、アメリカ横断レースをしている仲間を思いながら、汗で紙が濡れないように軍手をしながら、「何のこれ、何のこれ」と、地図に点を打ち続けた。

一人で走る気もあったが、日本縦断を目指す人もいるはずと大会の形式にした。
ゆっくり走っていると、体からアイデアが飛び出してくる。そのひとつが試走会をやることだった。１年目の年末に、本番コースでもある九州縦断の試走会をした。最長９日間の試走会は、素直に楽しかった。東海道や山陽道という大道とは違う旧道にショックも受けたが、何より日本縦断の大会が出来る自信を持てたのが最大の収穫だった。

コース図も出来て、宿泊地も考慮しながら机上で模擬縦断をした。５６日間で行ける。
次の年の春に募集することにしたが、発送する直前の３月末にバイクに乗っていて交通事故にあった。骨が外れた右肩は固定されていたが、入院前にしなければいけないことは、右手首だけで宛名を書くことだった。

走り旅未経験者も多かったので、２年目の夏に２回目の試走会で東北縦断をやった。それでも、全参加者がいろんな方法で夜になると集合してくる。地図を読めるとか、体力があるとか、暑いとか、雷だとか関係なく一日を過ごして不思議に夜には集合出来るのである。
夏の試走会が終わった後、９月に参加者が決まった。

最後の試走会は山口県で行った。試走会というより顔見世の練習会だった。
期間も３日間と短く何もないはずだった。地元の阪本さんに GP をお願いした。これが混乱の始まり。そして今まで、この「GP」と「宿泊予約」が、日本縦断走り旅を駆け巡った。
これをきっかけに、準備段階でも大会期間中の大会運営でも、出来うる限り皆で分担して大会をやっていこうという方向が出来上がった。妻も全面的に応援してくれた。自然と「励まし隊」が出来た。
一人でやろうとした日本縦断が、私の手を離れて勝手に動き出した。みんなが自分のことのようにやってくれた。この事が走り旅の準備期間をより豊かにしてくれたことは、スタート前に是非記録しておきたい。

今まで、以上に走りだしてから２ヶ月間、みんなの想いが弾けるだろう。そして、走り終わった後、走った者も励ました者も、日本縦断の想いは繋がり続けるだろう。

佐多岬ゴールしたあと、たばこを１本、ゆっくり吸ってみたい。
その後は、家の修理、歴史の道地図記録、道標探索の再開、次の日本縦断、子供の結婚？